

副市長レビュー（春） 調書

1 部局名・区名(課名)	教育委員会学校教育部 (指導課)	2 優先順位	市長指示
3 事項名	市内における都市部と山間部の学校交流		
4 目的	<ul style="list-style-type: none"> ● 市内の異なる環境にある小中学校の子どもが交流を行うことにより、自分の住んでいる地域のよさと環境の異なる地域のよさを知る。 ● 同世代の子ども同士の交流や学び合いを通して、人とふれあう喜びを感じ合う。 		
5 現状及び課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 林間学校や臨海学校として、かわな野外活動センターや三ヶ日青年の家などの施設を同日に利用している子どもたちが、朝夕の集いなどで交流を図っている。 ● 小中一貫教育を推進しているため、中学校区の交流活動は積極的に行っているが、環境の異なる都市部の学校と山間部の学校との学校同士の交流はない。 ● 交流のよさはあるが、授業時数の増えた現行学習指導要領において、新たに特色ある教育活動として交流活動を加えることは困難な状況にある。 ● 17 年度から 20 年度に広沢小と佐久間小・浦川小が交流を行っている。その際、学校規模の違いから多数対少数の関係となり、山間部の子どもの負担が大きいという課題が残っている。 		
6 事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ● 「学ぼう ふるさと浜松」学校交流活動として、交流を希望する学校の中から 2 組の交流校を選定し、学校交流を行う。 ● 選定においては、都市部と山間部の学校同士の交流を核としながらも、山間地と環境の異なる湖畔地域や海岸地域の学校との交流も視野に入れ交流校を選定する。また、山間部の学校においては、同中学校区の複数校が交流校になる場合も視野に入れ選定する。 ● 2 年または 3 年をかけて学校交流の有効性や課題を検証する。 ● 29 年度以降は、検証を踏まえて、交流活動の継続を検討する。 		
7 関係法令等			
8 スケジュール(いつ、何をやるか)	平成 25 年 4 月	市内小中学校への交流活動についての実態調査	
	6 月	平成 26 年度の学校交流活動の希望調査	
	9 月	26 年度の交流校の決定、交流計画立案	
	平成 26 年 4 月	交流活動の実施	
	6 月	平成 27 年度の学校交流活動の希望調査	
9 他都市等の参考事例			
10 過去のレビュー等での審議経過	なし(新規提案)	具体的内容	
	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> その他		
11 副市長レビュー(春)で審議、確認したい事項(該当項目を□→■)	事業等の新規提案	具体的内容	
	<input type="checkbox"/> 既存事業の見直し <input type="checkbox"/> その他	新たな事業であり、地域やニーズにより活動内容が異なるため、「夢をはぐくむ園・学校づくり推進事業委託事業」の事業費を増額する形で予算確保をお願いしたい。	
12 担当ヒアリングでの審議事項(実施後記載)	【協議事項】 ・モデル実施によるスキームなど、今後の進め方の確認 【特筆すべき事項】 ・平成 26 年度の交流事業実施校を募集し、モデル実施を行う予定である。		

<p>13 副市長レビュー(春)結果 (実施後記載。該当項目を□→■)</p>	<p>提案どおり進める 提案内容を一部見直して進める <input type="checkbox"/>サマーレビューで審議 <input type="checkbox"/>再度、調査研究等を行い検討 <input type="checkbox"/>その他</p>	<p>具体的内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育活動の中で市内中山間地域を活用する取り組みを、全庁的な中山間地域振興施策として検討する。 ・ 提案は、中山間地域振興施策の一部のメニューとして組み込んで進める。
<p>14 その他</p>		